

知ってとくとくミナミアオカメムシの生態と防除

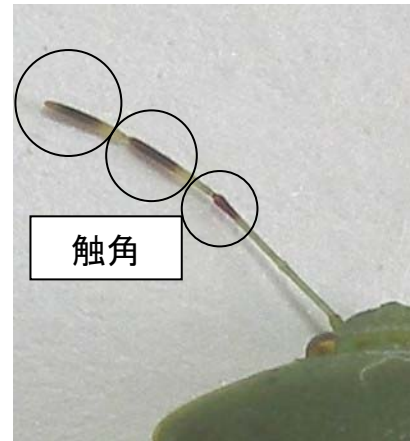
1 ミナミアオカメムシとは

和歌山県、南四国、南九州、南西諸島、台湾、中国、東南アジア等に広く分布していた水稲害虫です。しかし、平成20年愛知県においても本種の定着が確認され、平成21年には弥富市、知多郡南知多町、岡崎市、西尾市、幡豆郡吉良町・一色町、豊川市、豊橋市、田原市の水田畦畔や休耕田等で、確認されています。水稲やダイズで被害を受けやすく、県内で発生地域が徐々に拡大しており、警戒が必要です。

2 ミナミアオカメムシの見分け方

ミナミアオカメムシはアオクサカメムシ、ツヤアオカメムシとよく似ているため、区別点をお知らせします。

項目	ミナミアオカメムシ	アオクサカメムシ	ツヤアオカメムシ
体色・体形	ツヤのない緑色で、体形はアオクサより縦長	ツヤのない緑色	ツヤのある緑色
触角	第3、4、5節に褐色部がある	第3、4、5節に黒色部がある	第3、4節の先端に黒色部がある
腹部背面	一様に緑色	基部2～4節は黒～黒褐色で他は緑色	緑色、1～3節基部は紅色～褐色を帯びる
結合板	緑色で外縁後端部のみ黒色	緑色で外縁後端部及び各節中央部に黒点	緑色で外縁後端部のみ黒色
小楯板上端の斑点	白い斑点が3個ある	白い斑点が3個ある	ない



ミナミアオカメムシ

腹部背面(翅除去)



ミナミアオカメムシ

アオクサカメムシ

結合板



ミナミアオカメムシ

3 ミナミアオカメムシの生態

ミナミアオカメムシを的確に防除するためには、まずミナミアオカメムシの生態をよく理解し、生態に合った防除をする必要があります。そこで、ミナミアオカメムシの生態についてお知らせします。



発生生態

越冬成虫は4月上旬から活動を始め、麦、アブラナ科植物、タデ科やイネ科の雑草に飛来して産卵します。第1世代成虫は6月頃から発生し、マメ科、イネ科植物、ナス科作物(ナス、トマト、ピーマン等)などで繁殖し、秋までに3~4世代を経過します。9月下旬~1月上旬に越冬場所へ移動し、成虫で越冬します。越冬場所は枯れたイネ科植物で覆われた地表付近や落ち葉の間、ハクサイなどの葉の間、常緑樹の樹冠部などで、風当たりや温度差が少ない場所を好みます。



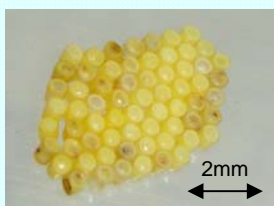
加害作物

広食性で水稲、大豆、小麦をはじめ、ナス、トマト、ピーマン等の野菜類、カンキツ、ナシ、モモ等の果樹類など、32科145種の植物に寄生・加害することが知られています。水稲では穂を吸汁し斑点米を発生させます。



発育ステージ

ミナミアオカメムシの幼虫は齢期によって外観が違います。テントウムシと間違えて見過ごさないように気をつけましょう。



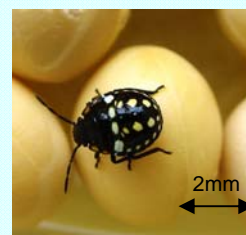
卵塊



初齢幼虫



2齢幼虫



3齢幼虫



4齢幼虫



5齢幼虫



成虫

4 ミナミアオカメムシによる被害

水稲とダイズでの被害が特に問題となっています。水稲では主に穂を吸汁し斑点米を発生させ、ダイズでは、主に莢内の子実を吸汁し、青立ちや被害粒を発生させます。他の斑点米カメムシに比べ体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなることが知られています。



イネ

成虫・幼虫が開花直後から収穫時までの登熟全期間を通して加害します。籾の穎のいずれの場所からでも口器を刺して無差別に吸汁し、斑点米発生能力は下表のとおりで、他の斑点米カメムシに比べて高いことが知られています。

斑点米発生能力

(川澤ら、1975)

1頭1日当たり 斑点米発生量(粒)	カメムシの種名	
0.51～ 1.00	ミナミアオカメムシ イネカメムシ	エビイロカメムシ クロアシホソナガカメムシ
0.11～ 0.50	アオクサカメムシ シラホシカメムシ クモヘリカメムシ コバネヒョウタンナガカメムシ	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ ヒゲナガカメムシ アカヒゲホソミドリカスミカメ ブチヒゲクロカスミカメ
0.06～ 0.10	トゲシラホシカメムシ ハナダカカメムシ	ホソハリカメムシ ブチヒメヘリカメムシ
0.01～ 0.05	ヒメハリカメムシ アカヒメヘリカメムシ メダカナガカメムシ	アカスジカスミカメ ハナグロミドリカスミカメ



ダイズ



ミナミアオカメムシの加害により刈り取り放棄されたダイズほ場



ダイズにおけるミナミアオカメムシの口針鞘

(酸性フクシンにより染色)

5 ミナミアオカメムシの防除方法

本種の寄生を確認したら水稻の斑点米カメムシ及びダイズの吸実性カメムシ類の防除対策に準じ、農薬の登録内容と収穫前日数に注意して、薬剤散布を行います。



イネ

- (1) ほ場で発生を確認した場合、直ちに防除を実施します。
- (2) ミナミアオカメムシに対して、ネオニコチノイド系薬剤(ジノテフラン剤、クロチアニジン剤等)、有機リン系薬剤(MEP剤、MPP剤等)は有効ですが、合成ピレスロイド系薬剤(シラフルオフエン剤、エトフェンプロックス剤)は防除効果が低いと言われています。
- (3) 粒剤はミナミアオカメムシ等大型種のカメムシに対して防除効果が劣るので、粒剤で防除を行ったほ場は、念のため発生の確認を行いましょう。
- (4) 収穫後、「ひこばえ」の稲穂で増殖し越冬個体が増えるので、早めにすき込みましよう。特に9月上旬までに収穫したほ場は「ひこばえ」の出穂前にすき込むとよいでしょう。



ダイズ

- (1) 若い莢の時期に被害を受けると、莢の発育が止まり、生育中に落下するものが多くなります。
- (2) 子実肥大初期の被害は、完全な不稔となって、板莢あるいは奇形莢となります。
- (3) 子実肥大中期から後期の被害は、奇形粒や変色粒が多くなります。
- (4) 幼莢期から子実肥大期における加害が大きいため、この時期に防除の重点をおくことが大切です。また、移動性が強いので、薬剤防除はできるだけ広い地域を一斉に行なった方が良く、莢の若い時から肥大期にかけて2~3回、7~10日ごとに散布するとよいでしょう。



あいち病害虫情報

●お問い合わせについて

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
所在地: 480-1193 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1
電話: 0561-62-0085(内線471) FAX: 0561-63-7820
E-mail: byogaichu@pref.aichi.lg.jp
ホームページアドレス: <http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/>



ムービ君は病害虫防除グループのマスコットキャラクターです



2009年8月

